

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/16 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

授業は3月4日から始まるため、授業についても後に少し書きますが、まずは私が派遣留学プログラムに参加するまでに行った勉強についてより詳しく書いていこうと思います。

私が留学を本格的に意識し始めたのは1年生の後期からでした。その頃にIELTS対策講座を履修し始め、翌年の春休みにある試験での目標のスコアの取得を目指して勉強をしていました。受験する語学試験の種類で、当初はTOEFLにするかIELTSにするかで迷っていたのですが、TOEFLは4技能全てのテストがパソコンで行われると聞き、その形式が苦手だと思った私は、今まで経験してきた高校受験や大学受験の形式によく似た筆記、面接の形式をとるIELTSを選択しました。恐らくどちらの形式にするかで最初に迷われる方がいると思うのですが、自分に合ったものを選ぶのが一番だと思います。また、これはどの英語の語学試験にも共通して言えることだと思うのですが、English Houseや附属図書館など学内の施設を有効活用するのが目標のスコアを獲得するための一番の近道だと思います。これらの施設には様々な問題集や参考書が用意されますし、特にEnglish Houseでは予約をすると先生と1to1で学習に関する相談をすることができ、Writingの採点など自分だけではどうしてもできないことまで助けてもらえるので、とてもオススメです。

さて、そのようにして勉強をして3月に試験を受け、目標のスコアを達成することができたため、2年の春に派遣留学プログラムの申請を行いました。私が応募したのは春派遣の留学だったので、プログラムはそのおよそ1年後に渡航するものになります。ここでオーストラリアのモナシュ大学を留学先に決めるのですが、その理由としては、かねてより勉強していた英語を自分の研究に役立てたかったことや、千葉大学では受けられない自分の興味分野に沿った授業がその大学で履修できることなどがありました。申請後に面接を行い、無事派遣留学生としての推薦が決定しました。留学が決まった後は更に忙しく、派遣先の大学や寮に提出する書類の作成、ビザの申請等に終始追われていました。私の大学の場合、その時点で前期に受けたい授業の候補も挙げなければならなかったのが大変でしたが、派遣留学先から千葉大学に留学しに来ていた学生の友達や自分と同じ学部でかつてモナシュ大学に派遣留学をしていた先輩等に相談に乗っていただき、留学先での生活や授業での様子を前もって聞いておくことができたので本当に助かりました。あとは留学の準備と並行して千葉大学での授業や課題をこなし、出発日まで過ごしました。

ここからは到着後のオリエンテーションや現地の友達から聞いた話に基づいて、モナシュ大学の授業形式について簡単に説明したいと思います。モナシュ大学の学生たちは学期ごとに授業を3~4つ履修しなければならないのですが、私の所属するArtsという学部では、授業1つ毎にLectureとTutorialという2種類の授業形式の時間が週に1時間ずつあります。Lectureは講義

形式で主に先生の話聞く時間、Tutorialはディスカッション形式で毎回出されるテーマに沿って他の生徒達と話し合いをする時間だそうです。非英語圏からの留学生にとって特に Tutorialの時間は、英語力が伴わないことからどうしても話についていけなかったり、場合によっては全く話に入れないことから空気のように扱われてしまったりするため、とても辛い時間になることもあるという話を聞き、今から既にとても怖いです。Engineeringなど他の学部だと Tutorialの形式が異なったり、これら2種類に加えて実験の時間があったりするようです。課題の提出には千葉大学同様、主に Moodleを使用するそうで、そこはあまり心配する必要はないかなと思いました。

ここまで駆け足で留学の準備や授業について書いてきましたが、書き忘れたことがあった場合には次の月以降の報告書に書いていこうと思います。まだ分からないことだらけですが、少しずつ慣れていくことができると考えています。



遠足で行った Healesville Sanctuary で撮影したコアラ

2. 生活の状況

日本の成田空港を出発し、丸1日ほどかけてメルボルンに到着することができました。オーストラリアは日本と季節が真逆で、2月は真夏です。寒い日本でかなり着込んでから飛行機に乗り込みましたが、現地に到着してからとても後悔しました。空港から大学までは大学が手配した無料の送迎車のサービスを利用して移動することができたので、特に困ったことはありませんでした。自分一人で重い荷物を運びながら電車やバスなどの公共の交通機関で移動するのはとても大変なので、どの大学に留学するにしてもこのようなサービスがある場合は積極的に利用した方が良くと思います。私が空港に到着した際、モナシュ大学以外にもメルボルン近郊の様々な大学が手配した送迎車が来ているのが確認できたので、そのようなサービスを行なっている大学は多いのではないかと思います。

私は下宿先にキャンパス内の寮を選んだのですが、今はそのことをひどく後悔しています。ここからはほとんど愚痴のような内容になってしまい、お見苦しい内容で申し訳ないのですが、これから留学を考えている方に向けてリアルな声を聞いて（読んで？）いただきたいと思い、あえてここに書かせていただくことにします。入寮したその日から学期が始まるまで、寮ではパーティやミーティングが開かれているのですが、日本にいる時から不特定多数の人と話すのが苦手な私にとってははっきり言って苦痛でしかありません。逆に考えると、元々パーティーが好きな方が

らすればとても嬉しいことなのだと思います。最初の方は頑張って参加していましたが、今はもうほとんど行かなくなりました。パーティによってはお酒も入り、夜遅くまで寮のすぐ外や寮の中で騒ぐ人もいるので、困っています。寮に住んでいる人のほとんどは親切な人ばかりで、一人でご飯を食べていたりすると声をかけてくれるのですが、自分としては一人で静かにしたいので放っておいてほしいなと思っています。でもそう言うと自分が悪いことをしたみたいに思えて嫌なので、結局何も言わずに部屋にこもるか、他の場所に逃げてしまいます。一人で落ち着くことのできるスペースが少ないので、毎日疲れがひどく、体調も崩しがちです。腹痛で朝、起き上がることができない時もありました。大学では人付き合いを頑張ろうと思えるのですが、その疲れを癒すための寮に居る時も人付き合いを頑張らなければならないと思うと辛いです。人と話せばそれだけ英語も上手になるし、友達も増えて楽しいのかもしれませんが、とにかく精神的に今は無理だと感じています。また寮の設備も、トイレからシャワー、台所まで色々なものが寮全体で共有されているのですが、誰かが汚く使ってそのままということが毎日あるのでそこでもストレスが溜まります。せめて自分が使うときは片付けて綺麗にしておくのですが、次使うときに見るとまた汚くなっています。そして台所で料理をしても、180人以上いる寮全体で小さな台所一室を共有しているために人口密度が高く、誰がどこの台を使っているのかも分からなくなるほどで、私の調理器具を隣の人が勝手に使っていることもあります。そういう時はイライラして強い口調で注意してしまうこともあり、言ったら分かってくれるのですが、私ばかりが怒って疲れているみたいでそれも辛いです。また連日35度以上の猛暑になるにも関わらず寮にはエアコンも扇風機も無く、毎日暑すぎてよく眠ることができません。他の学生達の話を知っていると家賃が同じくらいで今住んでいる寮よりもシェアハウスの方が設備の面からも快適そうなので、次の学期からはどこか別のシェアハウスに入ろうかと考えています。ただ設備に関しては、大学内に複数ある寮によって異なるようで、私の住んでいるところより家賃が高いものの、トイレやシャワー、キッチンなどが別だという寮もあるらしく、必ずしも大学内の全ての寮の環境が悪いわけではないようです。

ここまで長々と寮に関する不満について書いてきてしまいましたが、何が言いたいかという、以上のような留学先の生活状況については実際に来てみないと分からない、ということです。当たり前のことですが、今回改めてそのことを強く感じました。ウェブサイト等で寮の設備について確認してきていましたが、サイトには良いことしか書いてありません。実際に寮に来て、予想していたものと違う、ということが多々ありました。また寮での人付き合いに関しては、その人自身の性格や他の住民との相性などもあるため、それこそ入寮日当日になってみないと分かりません。このようなことを渡航前に全て予想をつけておくことは不可能だと思います。その反面、渡航後に新たにたくさんの選択肢が見えてくることも確かです。私のように他のシェアハウスに入ることを検討するなど、渡航前には考えもつかなかったことが現実味を帯びてくることもあります。ですので、全ての不安を今すぐ解消させよう、といったような完璧主義にはあまりなりすぎないことも重要なことと思うようになりました。長期留学をする上で、何一つ困ることが無いということは無いはずだと自分に言い聞かせて3月からの授業も頑張っていこうと思います。